

平成28年度第6回社会教育委員会議抄録

日 時： 平成28年11月15日（火） 13時30分～15時30分

場 所： 西宮市教育委員会 3階 大会議室

〔出席委員〕

伊 藤 篤	羽 田 英 彦
高 瀬 秀 紀	中 野 睦 子
東 久 仁 夫	川 本 輝 子
片 山 幸 代	和 久 田 純 子
工 藤 好 彦	西 本 望
佐 藤 智 子	小 林 節 子

〔行政出席者〕

山本 教育次長	西村 社会教育部長
大和 学校教育部長	中島 社会教育課長
野田 人権教育推進課長	上田 中央公民館長
北 中央図書館長	牧山 青少年育成課長
飯干 青少年補導課長	坂井 社会教育課係長
今福 社会教育課副主査	木村 社会教育課嘱託員

署名委員

\_\_\_\_\_ (印)

\_\_\_\_\_ (印)

平成28年度 第6回社会教育委員会会議抄録

議長	<p>定刻になりましたので、ただ今より平成28年度第6回社会教育委員会議を開会させていただきます。</p> <p>本日の出席者は12名です。</p> <p>本日の傍聴はありますか。</p>
事務局	<p>ございません。</p>
議長	<p>それでは議事の次第に従いまして協議に移ります。</p> <p>協議第1号「地域活動団体による取組みについて」です。</p> <p>これまで、活力あるコミュニティの姿として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①多世代(若い世代や働き盛り世代、高齢者)の交流が日常的にあるコミュニティ</li> <li>②多様な主体(学校・家庭・地域など)の連携・協働がしっかりできているコミュニティ</li> <li>③教育資源を活用しながら地域の共通課題を自分たちで見つけ解決していくコミュニティ</li> </ul> <p>として挙げておりましたが、その中から、③の地域の共通課題を自分達で見つけ解決していくコミュニティについて、お話いただきます。</p>
事務局	<p>西宮の公民館の歴史は昭和22年に鳴尾公民館が設置されたことから始まります。今回ご説明する推進委員会制度は、昭和52年、住民が自ら公民館事業を企画・運営する制度として発足しました。地域団体の代表者で構成される公民館運営協議会(選考委員会)で、各公民館7名の推進員を選出しています。主な活動としましては、月に1回運営に関することを協議する定例会、講座の企画・運営、中央公民館主催の研修会があります。地域との連携といたしまして、世話人講座というものを実施しています。これは老人クラブやPTA、自治会などの団体が企画するものを推進員講座として実施するための制度です。他にも地域団体との共催も行うなど、地域活動の1つとして推進員に活動していただいております。</p>
議長	<p>ありがとうございました。それでは引続き、「公民館活動推進員の活動について、元公民館活動推進員のお2人より、それぞれの実体験を元に地域住民との関わりや課題解決へつなげていかれた様子について、お話いただきます。</p> <p>はじめに、元「鳴尾東公民館活動推進員」、続いて元「浜脇公民館活動推進員」にお話いただき、お2人のお話の後で質疑応答などのお時間を設けたいと思います。</p> <p>それでは、よろしく願いいたします。</p>
元推進員(鳴尾東)	<p>鳴尾東公民館での活動についてお話させていただきたいと思います。</p> <p>鳴尾東地区は従来から公民館を学習場所としており、地域づくりの拠点とする意識が高く、地域のリーダーがその意識を受け継いでいる地域です。その1つの表れとして、推進委員会制度が始まってから40年以上経ちますが、鳴尾東公民館の平均講座開催数は年間60を超えています。1番多いときでは年間109回の講座を実施しております。鳴尾東地区は4つの自治会から成り、それらをまとめた鳴尾東コミュニティ協議会が組織され、公民館推進委員会はその中の学習部として位置づけられています。他にも多くの部があり、それぞれの課題や要望に応じて講座を開催するな</p>

	<p>ど、世話人講座や共催講座が多く開催されています。また、幼稚園や学校とも連携して、子供たちを対象とした事業も行っております。中でも、5日間のトライやるウィークについて、受け入れを行っているのは、市内でも鳴尾東だけとお聞きしております。</p> <p>鳴尾東公民館では人材育成・人材活用についても力を入れております。以前はすぐに辞めてしまう方やご高齢の方が多という現状がありました。それを解決するために、われわれは推進員のやりがいのアピールや手厚い活動サポートを行うことにしました。また、若い世代にも推進員活動を担ってもらうため、地域ボランティアをしている若者やPTAに広く呼びかけました。その結果、若い方も参加していただくことができ、鳴尾東公民館の推進員の年齢幅が広がるとともに、長く務めていただけるようになりました。また、以前は3期務めると再び推進員になることはできないとされていましたが、任期を終えた推進員でも2年以上期間をあげれば再選できるようになったことにより、経験豊富な人材の活用が可能になりました。</p> <p>鳴尾東の1つの特徴として、鳴尾、鳴尾東、南甲子園、学文、高須の5つの公民館を対象とした鳴尾地区5館交流会を実施しております。情報交換・意見交換を目的として平成22年度より始まりました。平成24年度からは共通テーマ講座を実施するなど活発に交流しています。</p> <p>このように、鳴尾東公民館では7名の推進員が力を合わせ、地域の課題を地域団体と連携しながら解決するため、活動しています。以上です。</p>
元推進員（浜脇）	<p>本日はお招きいただきありがとうございます。公民館推進活動と地域の実情についてお話しさせていただきます。浜脇公民館区は2つの地域があり、公民館運営協議会は2つの地域団体で構成されています。講座については、世話人講座が約7割を占めており、老人クラブやPTAなどの地域団体が連携して開催しております。浜脇中学校コーラス部の一般参加者が浜脇デイサービスセンターで唱歌発表をする「ふれあいコーラス」や就学前の子供と保護者を対象にした「さくらんぼ運動会」などの地域と連携した講座も多く開催しております。</p>
議長	<p>課題として、推進員のなり手を見つけることは非常に難しい問題です。若い人材を発掘するために幼稚園や小学校、中学校のPTA、青少年愛護協議会に接触し、公民館活動を知ってもらうことが大切だと考えています。</p> <p>われわれも「みんなで支えあうまち」をテーマに協議を重ねておりますが、課題が多様化しており、連携なしには解決が困難であるというのが実情です。そのため、地域の団体が縦の関係だけでなく、横の連携を作っていくことが今後の公民館活動においても課題なのではないかと考えております。以上です。</p>
委員	<p>ありがとうございます。それでは、お2人にご質問等がございましたら、お願いいたします。</p>
元推進員（鳴尾東）	<p>推進員のなり手が足りないということを伺ったことがあるのですが、若い世代にも参加していただくために何か工夫などされていますか。</p> <p>推進員の活動が大変だということだけが広まってしまっていることが、1つの要因だと考えています。ですので、みんなで協力して行うということや成功したときのやりがいを伝えることが必要だと思います。</p>

元推進員（浜脇）	実際の活動を様々な世代の方に見ていただき、つながりを作っていくことや、楽しく活動していただけるようにサポートすることが大事ではないかと思います。
委員	鳴尾東公民館はトライやるウィークの推進もされているようですが、詳しくお聞かせ願えないでしょうか。
元推進員（鳴尾東）	他にも受け入れを行っているところはあるかもしれませんが、5日間の受け入れを行っているのは鳴尾東のみと伺っています。推進員会講座だけでなく、グループの活動に参加するなど、地域団体に協力をいただきながら、推進員とともに活動を体験していただいています。
委員	推進員を公募し、募集があったことはありますか。
事務局	あります。知らない人が入ってくるということで警戒される地域の方もおられますが、しっかりとした選考をすれば可能だということで2年ほど前から公募をさせていただいています。
元推進員（鳴尾東）	鳴尾東も昨年から公募させていただきましたが、応募はありませんでした。公募のためのPRが難しいと感じております。
委員	推進員の選出は各地域団体から行うということでしたが、お話を聞いていると、それぞれの推進員の母体である地域団体で築かれているつながりは推進員として集まったときに薄まっているように感じられますが、いかがでしょうか。
元推進員（鳴尾東）	選考委員会は各地域団体から選ばれていますが、推進員はその選考委員が地域の人を推薦いたしますので、地域団体から選ぶというわけではありません。そのため、現在の推進員の中には地域団体に属していない人もおられます。確かに各地域団体から選出したほうがそれぞれの団体でのつながりがあるので、共催等はしやすいかと思います。しかし、鳴尾東にはコミュニティ協議会があり、そこで情報交換をするなどの連携をするようにしています。
委員	各地域団体が選出委員に入っていますが、その方々の役割は選出した段階で終了ということですか。
元推進員（鳴尾東）	そこで終了というわけではありません。選出した責任もあります。
事務局	公民館としましては、運営協議会と推進員の懇談会を年に1回実施するようにしています。
元推進員（浜脇）	浜脇の場合は、選出は運営協議会にお任せしています。運営協議会で上手くいかない場合、現役の推進員に相談に来られますが、やはり若い世代に参加していただくのは難しいようです。
委員	トライやるウィークの5日間受け入れはいつ始まり、何人ぐらい参加していますか。
元推進員（鳴尾東）	はっきりしたことはわかりかねますが、推進委員会だけで実施し始めたのはずいぶん前からです。多いときは5人、少ないときは3人程度参加しています。
委員	横のつながりを活性化する方法は考えておられますか。
元推進員（浜脇）	横のつながりをつくるために、高齢者が交流できるサロンのような場を作りたいと思っています。図書館では3階に喫茶店を作り、交流の場にしており、なごやかに話がすることができます。しかし、図書館が香櫨園に近いということもあり、香櫨園の利用者が多く、浜脇にもそういった場を作れたらと思っています。
議長	ありがとうございました。 それでは次に、平成27年度に実施された「公民館推進員アンケート」

<p>事務局</p>	<p>の趣旨について、中央公民館長よりご説明いただき、それから「アンケート結果の解説」について、委員よりご説明をいただきます。</p> <p>それでは、よろしく願いいたします。</p> <p>このアンケートは平成27年度に実施したものです。推進員の方の思いや、何が負担であり、何がやりがいになっているのか、行政に対する考えを汲み取る術が今までございませんでした。それをアンケートにより把握し、今後の推進委員会のあり方を考えるうえで活用し、推進員の方にもフィードバックすることによって今後の活動について考えていただきたいと思い、実施しました。実施に当たっては、公共施設の適正配置の審議会委員もしておられました委員（社会教育委員）にご指導をいただきながらアンケートを作成させていただきました。</p>
<p>委員</p>	<p>では、アンケート結果についてご説明させていただきます。</p> <p>年齢・性別を見てもみると、やはり50代～70代中心に構成されており、女性のほうが多いことがわかります。居住年数・出身地に関しては西宮市に20年以上お住まいの方が多くですが、関西圏以外の方もいらっしゃり、必ずしも地域に詳しい方がなられているわけではないことがわかります。</p> <p>就労・育児・介護状況を見てもみると、働いていない方や育児、介護をされていない方が多くですが、約3分の1の方がお仕事や育児・介護をしながら活動されています。先ほどもお話にありましたが、その方々の両立のサポートが大事になるのではないかと感じます。</p> <p>推進員歴は1期2期の方が多く、なかなか3期まで続けることが難しいことがうかがえます。苦労と負担の内容にもお聞きしたところ、講座の内容、講師の選定、集客方法に関するお悩みが多いようです。また、1期2期の経験が浅い方が多いことも関係していると思うのですが、何をすればよいのかわからず不安に感じていらっしゃる方が多いことが分かります。あとは、両立の問題や人との関わりの不安があるようです。やりがいの部分に関しては、楽しい、知識を活かすことができるということが1つあげられます。</p> <p>2つ目は推進員の方や地域、受講生の方とつながりができるというところがやりがいにつながっています。市全体に貢献しているというよりは、身近な人との関わりが推進員のやりがいにつながっていることがわかります。先ほどもお話に出ました地域との活動については、連携してよかったと思う団体と、今後連携したい団体をあげてもらいました。</p> <p>PTAについては連携してよかったが、今後も更に連携したいと考えている人が多いですが、大学・専門学校とは連携できておらず、今後も連携したいという結果が出ています。他にも公民館グループや地元企業との連携を望む声があります。</p> <p>そして、推進員活動を充実させるために必要なことをお聞きしたところ、講座の企画についての課題解決をしたい、推進員のやりがい・充実感・協力関係の構築、推進員の負担解消・軽減、推進員活動と地域とのつながり構築の4つが多く見られました。</p> <p>アンケートの感想としましては、推進員をサポートするための体制作り、地域とのつながりの構築、地域団体との恒常的に連携していくための体制作りなどのネットワーク作りが必要だと感じました。そして、若い方にどうやって参加していただくかなど、多様性をどう確保するかが大きな課題だと思います。また、地区ごと、公民館ごとに個性を出していく、地域人材を活かすなどの工夫も事業運営のうえで大事なのではないかと思</p>

議長	います。
元推進員(鳴尾東)	ありがとうございました。今のご説明を受けて、本日発表いただきましたお二人の推進員さんから何かご感想などございますか。
元推進員(浜脇)	「推進員活動を充実させるために必要なのは」という項目で、他館の推進員との交流や他の地区館での情報交換に関しては鳴尾東地区では実施していますが、他の公民館にも広がっていけばいいと思います。
議長	公民館との連携によって情報交換をすることが非常に大事だなと改めて感じました。また、地域の人材発掘やそういった方々にどう参加していただくかこれから考えていかななくてはいけないと思いました。
議長	ありがとうございました。今までのお話をとおして、「地域住民が自ら課題を発見し、その課題解決に向けて行動していく」ことを支える仕組みとして、推進員活動以外に、どのようなアイデアや可能性があるのか、またすでにこういう実践があるなどございますか。
委員	(なし)
議長	協議第2号「平成29年度社会教育団体にかかる補助金について」に移ります。5月の会議の際に、補助金について各所管課よりご説明をいただいておりますが、次年度の予算編成にあたり、委員の皆さまのご意見を聞きしたいと思っております。
事務局	各所管課から、平成28年度から予算額や補助内容等に変更がありましたら、その点につきましてもご説明をお願いいたします。 青少年育成課よりお願いいたします。
議長	青少年育成課では、「西宮市子ども会協議会補助金」、「地区青少年愛護協議会補助金」、「青少年育成支援事業補助金」の3つの補助事業を担当させていただいております。平成29年度予算はいずれも28年度と同様の金額で考えています。
議長 事務局	ありがとうございました。続いて、青少年補導課よりお願いいたします。 平成29年度の「西宮市青少年補導委員連絡協議会補助金」につきまして、28年度同様の金額を考えております。
議長	ありがとうございました。続いて、人権教育推進課よりお願いいたします。
事務局	「西宮市人権・同和教育協議会補助金」についてですが、平成29年度につきましましては、平成28年度から10万円減額になっております。これは、持ち回りで担当している兵庫県人権研究大会があるのですが、28年度は阪神地区の芦屋で開催であったため、10万円を分担金としてあてておりました。29年度についてはこの分担金の支払いがないため、減額としています。
議長 委員	ありがとうございました。今までの中で、ご意見等ございますか。 (なし)
議長	続きまして、報告事項第2号の「平成28年度阪神南地区社会教育委員協議会研修会の報告」に移りたいと思っております。11月8日に、尼崎市立中央図書館において、事例発表と講演会がございました。
委員	副議長、委員5名、事務局2名と、私が出席いたしました。 代表しまして、委員に簡単に報告をお願いしたいと思います。 報告書は別途まとめさせていただいておりますが、いくつかお話させていただきたいと思っております。 1点目は田能遺跡サポーターについてです。一般募集したサポーターの

議長	<p>方とともに、田能地区の復元円形平地住居屋根の葺き替えを行ったそうです。専門家の方だけでなく、地域の方が活動されているとのこと。</p> <p>2点目は若狭氏による講演会についてです。「学びを通した協働の取組」というタイトルで行われました。尼崎市南部地域の再生を図るために実施された多様な事業について報告されていました。例えば、地場産業を盛り上げるため、甲子園のバックネットが尼崎市で作られていることや、尼崎市で作られているしょうゆやソースについて取り上げ、発信する取組みがありました。</p> <p>ありがとうございました。次に、昨日11月14日に、神戸市の兵庫県民会館において兵庫県社会教育研究大会が開催されました。委員7名、事務局2名が出席いたしました。</p>
委員	<p>代表しまして、委員に簡単に報告をお願いしたいと思います。</p> <p>午前は全体会で、テーマは「社会教育の未来像」福岡NPOセンターの代表の方の中間支援の立場からのお話をお伺いしました。社会問題の解決のために、行政、企業、市民の連携・協働が必要だとおっしゃっていました。これからの社会教育の役割として、1つのつながりや学びであり、それをつないでいくための支援が重要であるというお話がありました。これを推進していくためには、出会うことが必要であり、出会うためにあいさつをし、お互いのできることを探り、PDCAで協議することにより、全ての人が安全・安心に暮らせる社会にすることが今後の社会教育に求められているというお話でした。</p> <p>午後は分科会でした。私は、上郡町の社会教育委員が学校・家庭・地域の連携・協働を進める事業の実施をテーマにした分科会に出席させていただきました。上郡町は、7館の公民館が地域活動の拠点になっています。夢をひらく教育というモットーを掲げ、コーディネーターを中心に登録ボランティアの方が活動されています。主な活動は、学校教育のサポートとして小学校の授業に地域の方が支援、放課後子供教室を支援する活動の2つに分けられます。行政・市民が社会教育活動をしていますとのことでした。今後の課題として、ボランティアの確保、学校と地域の連携強化、地域団体間の連携強化を上げてられていました。</p>
議長	<p>ありがとうございました。次年度の分科会では、本市が当たっておりますが、また事務局と協議をしながらすすめていきたいと思っておりますので、ご協力いただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは、本日の会議は、これで終了いたします。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>